

# 第一報

## 保健指導ミーティングによる ネットワーク化の試み —全国的な開催の取り組みから—

服部めぐみ<sup>1)</sup> 橋本結花<sup>1)</sup> 下野由香<sup>1)</sup> 村中峯子<sup>1)</sup> 中板育美<sup>1)</sup>  
1)公益社団法人 日本看護協会

平成25年1月14日第1回日本公衆衛生看護学会にて示説発表

# 1.保健指導ミーティングとは

単なる講習会や座学での一方的な勉強会ではない、  
保健師の保健指導における「スキルアップへの動機づけ」を目的とした実践事例の検討会

- ・保健指導は、「やっているつもり」と「やっていること・伝わっていること」が乖離し、指導がパターン化したり、行き詰まり感を感じることが少なくない。
- ・保健師の力量形成には、自分がどのような捉え方や考え方で支援を行っているのかの、自身の振り返りが不可欠。

自分の保健指導って・・・



「自分のことをわかる」ことは、意外に難しい！  
でも、仲間と一緒に、自分で自分の保健指導  
を覗いてみよう♪

## 2.保健指導ミーティングの特徴

- ①保健指導の実践や自分の経験を「言語化」することが第一歩。
- ②上手くいっている実践を語るだけでなく、むしろ「どこにつまづき、迷っているのか」が大切であり、聴いてくれる人がいる。
- ③責めたり、追い詰められたりせず、互いの実践を共感する。
- ④実践を振り返るには、保健師の相互支援が重要。自分が語れなくても、他の保健師を「鏡」することもできる。

うまくいかない自分を目の当たりにするのは、苦痛もある…。しかし、時には自分を笑い飛ばすユーモアも必要♪  
そのためにも、グループ討議が効果的！




写真：グループ討議の様子(Y県)

# 3.実施体制や実施方法

- 1.実施体制:
  - ①H20～H22年度は日本看護協会に「保健指導を担う人材育成検討委員会」を設置。プログラム内容や運営方法、評価等を検討
  - ②各都道府県でのミーティングの開催にあたっては、各都道府県看護協会保健師職能委員会と日本看護協会が連携し実施
- 2.開催場所:各都道府県看護協会が各都道府県(地域)で開催
- 3.実施開始:平成20～24年度(5年間継続して実施中)
- 4.実施内容:プログラムには、以下の①、②を盛り込むことを必須としている
  - ①保健指導の実践事例発表をする
  - ②保健師同士が語り合えるようグループ討議を導入する

※なお、運営事務局は企画や実施について、講師や本会事務局より支援やアドバイスを受ける



全国の都道府県看護協会との連携・協力で全国各地で開催されています♪

## 4. テーマやプログラム(例)

平成20年の初年度は、テーマを「生活習慣病」のみに絞っていたが、様々なニーズに応えるため、現在は各都道府県の状況やトピックスに合わせてテーマを設定している。

### テーマの例

- ◆ 特定保健指導1年生。  
～あれっ？を大事に語り合おう  
つまずき、ひっかかったことを～
- ◆ 働き盛りのメンタルヘルス対策を考える
- ◆ 児童虐待予防に関する親支援について
- ◆ 一緒に仲間と話してみませんか！  
保健指導ミーティング
- ◆ 突然の災害、その時あなたはどうします？
- ◆ 保健指導スキルの向上を目指して  
～岩手の保健師魂を継承するために～

**生活習慣病、メンタルヘルス、母子保健  
災害、ネットワークの構築などテーマは多様！**

### 当日のプログラム例

1. あいさつ
2. 実践事例発表  
「保健指導,こんなふうにやっています  
～手ごたえや困難感の本音～」
  - ① △△市保健師
  - ② (株)○○保健師
  - ③ □□健診センター
3. グループ討議
  - ・ 実践事例発表を聞いて感じたこと
  - ・ 自分の保健指導を振り返って思ったことは
  - ・ 効果的な保健指導って
4. グループ発表
  - ・ 他の仲間はどう思ってる？
5. まとめ

××県看護協会



## 5.周知方法や参加呼びかけ

各都道府県看護協会が、地域の状況や保健師の所属先に応じ、様々な工夫を行い周知

- ・看護協会の会員だけでなく、非会員へも参加呼びかけ
- ・都道府県の主管課とも協力し、情報発信
- ・保険者協議会や保健師長会とも連携
- ・案内のチラシやメールを作成し、積極的に周知
- ・特に新任保健師や新採用保健師には積極的に声かけ
- ・名簿やメーリングリストを作成し、保健師全員に声かけ



そのほかに、  
各都道府県看護協会では、「皆が集まりやすい会場の手配」や  
「懇親会も合わせて実施」など、様々な工夫をしています。

# 6.結果① 開催県(地域)の拡大

## ▼平成20年度～22年度

保健指導支援事業で実施

※ただし新潟県・山梨県・広島県  
は平成23年度から独自で実施

## ▼平成23年度

保健指導支援事業で実施

日本看護協会独自予算で実施

## ▼平成24年度

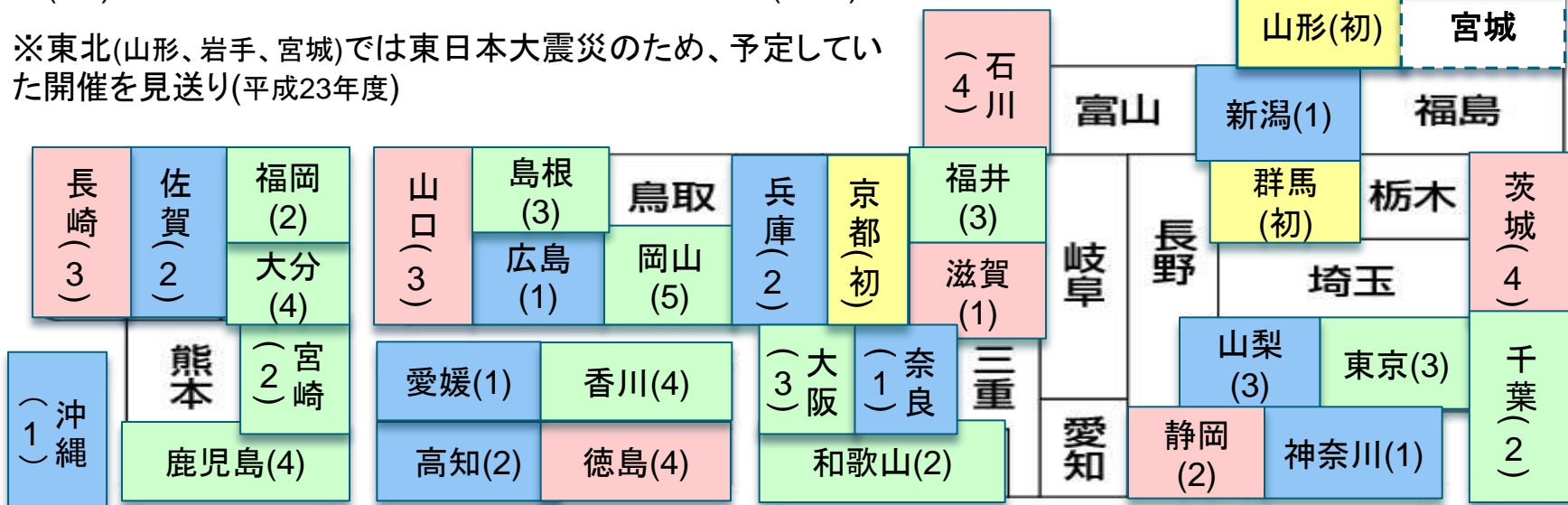
平成24年度初開催

**・平成20～24年度までに  
34都府県で開催**

**・2回以上継続開催している  
都道府県は21箇所**

※( )内の数字は、平成20年度からの年度開催実績(回数)

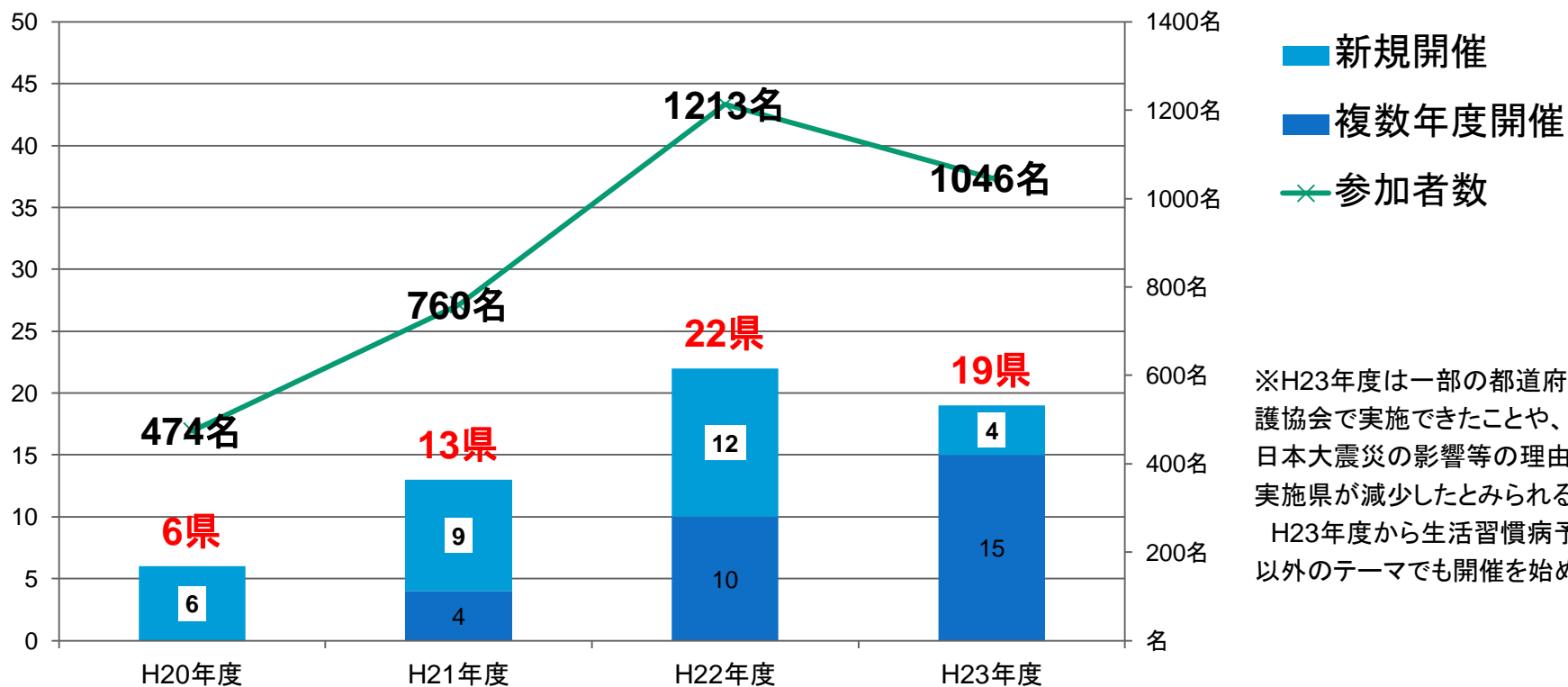
※東北(山形、岩手、宮城)では東日本大震災のため、予定していた開催を見送り(平成23年度)



## 7.結果② これまでの参加者は3000人以上

保健指導ミーティングには、4年間で延べ3,493人もの保健指導実施者(保健師等)が参加。

### ■保健指導ミーティング 開催都道府県及び参加者数の推移



※H23年度は一部の都道府県看護協会でも実施できたことや、東日本大震災の影響等の理由で、実施県が減少したとみられる。  
H23年度から生活習慣病予防以外のテーマでも開催を始めた。



## 8.結果③ 多様な年代や所属の保健師が参加

参加者アンケート結果から、幅広い年代や多様な所属の保健師がこの保健指導ミーティングに参加している。

表1 参加者の年齢

年齢	人数	割合
①21～30歳	209	23.0%
②31～40歳	241	26.5%
③41～50歳	256	28.2%
④51～60歳	163	17.9%
⑤61歳以上	6	0.7%
無回答	34	3.7%
総計	909	100.0%

表2 参加者の活動領域

活動領域	人数	割合
①行政	610	67.1%
②産業	74	8.1%
③医療	157	17.3%
④福祉	5	0.6%
⑤教育	13	1.4%
⑥その他	46	5.1%
無回答	4	0.4%
総計	909	100.0%

### 参加者の内訳

市町村や都道府県に所属する行政保健師の参加が最も多かったが、「健診センター・労働衛生機関」や「病院」に所属する保健師も多く参加している。

保健指導ミーティングの中間評価を目的としたアンケート

①アンケート実施期間：H22年10月26日～H23年1月22日 ②対象：各都道府県で開催した保健指導ミーティング参加者1,213人

③ 回答状況：909人(回答率75%) ※909名のうち、保健師は827人、看護師30人、その他48人、無回答4名となっている。

## 9.結果④ 「参加者同士の交流」に手ごたえあり

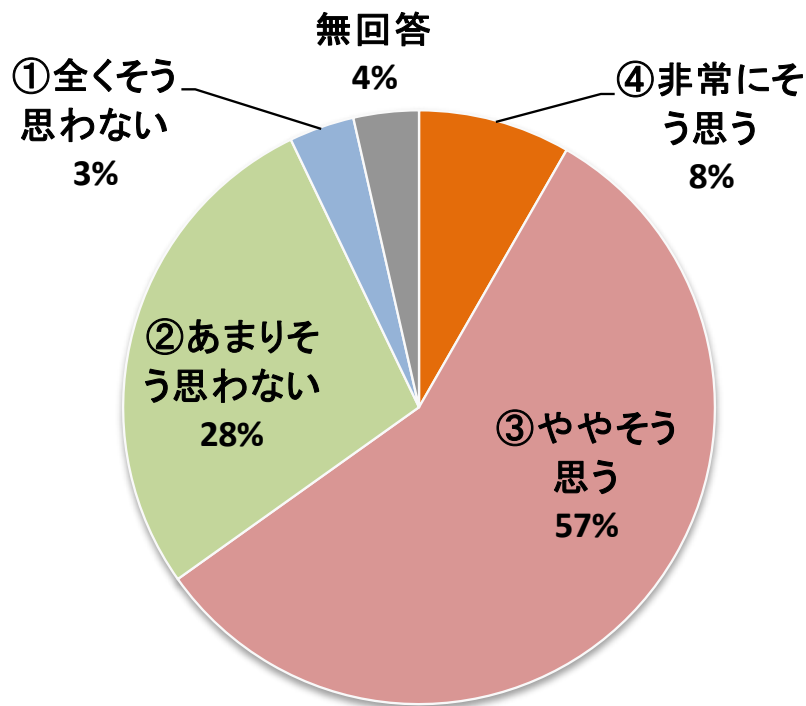


図1 保健指導ミーティングに参加して、やりとりできる関係づくりができましたか

- 1 参加者アンケート結果から、参加者の約7割が保健指導ミーティングに参加し、「参加者との交流ができた」と回答した。
- 2 また、参加者の半数以上が、保健指導ミーティングの参加者と「互いにやりとりができる関係ができた」という手ごたえを感じている。(図1)

保健指導ミーティングの中間評価を目的としたアンケート

①アンケート実施期間：H22年10月26日～H23年1月22日 ②対象：各都道府県で開催した保健指導ミーティング参加者1,213人

③ 回答状況：909人(回答率75%) ※909名のうち、保健師は827人、看護師30人、その他48人、無回答4名となっている。

## 10.結果⑤ 準備段階から保健師間の連携強化

さらに各都道府県での取り組みにおいては、  
準備段階の調整も含めて、一連の取り組みが保健師  
同士の連携強化の重要な場となっていた。

- ・実行委員に県内の行政、産業、教育分野など様々な領域の保健師を人選
- ・グループ討議時の参加者のグループメンバーの構成の検討では、事例のテーマ、年代、所属が重ならないよう考慮する打合せを開催  
→参加者同士の交流や関係性に繋がった
- ・ミーティングの実行委員で、ファシリテーター研修会を開催

どの開催県も試行錯誤、創意工夫をしながら、保健指導ミーティングを実施

写真：ファシリテーター研修会の一場面



# 11.まとめ

このような全国的な取り組みの成果から、この保健指導ミーティングには、以下のような成果や特徴がみられた。

- 1.各地域の実情に合わせ、テーマや周知方法にも工夫を凝らし、開催されていた。
- 2.同じ県内で活動をする保健師でも、活動領域や年代の異なる保健師が一堂に会する機会はなかなかない。ざっくばらんに交流ができるこの機会は、保健師にとって非常に貴重である。
- 3.さらに、実施にあたってはその準備段階から様々な連携がなされており、この連携が日頃の保健師活動に繋がっていた。



# 保健指導を担う人材育成検討委員会 委員名簿

## ◆平成20年度

- ◎岡本 玲子 岡山大学大学院保健学研究科 教授  
東 美鈴 兵庫県東播磨県民局県民生活部明石健康福祉事務所（明石保健所）保健指導課課長  
奥山 則子 東京慈恵会医科大学医学部看護学科 教授  
中野 宏子 倉敷市保健所保健課 課長  
西内千代子 日本看護協会 保健師職能委員  
松田 一美 全国健康保険協会保健サービスグループ 次長兼グループ長

## ◆平成21年度

- ◎岡本 玲子 岡山大学大学院保健学研究科 教授  
奥山 則子 東京慈恵会医科大学医学部看護学科 教授  
中野 律子 大阪府看護協会 保健師職能委員長  
西内千代子 日本看護協会 保健師職能委員  
森永裕美子 倉敷市保健所保健課 主任

## ◆平成22年度

- ◎岡本 玲子 岡山大学大学院保健学研究科 教授  
奥山 則子 東京慈恵会医科大学医学部看護学科 教授  
櫻澤 正浩 健康保険組合連合会 保健部保健師業務グループ  
西内千代子 西内ヘルスコンサルティング・オフィス（日本看護協会／保健師職能委員）  
森田 正子 茨城県潮来保健所 保健指導課長（茨城県看護協会／保健師職能委員長）  
森永裕美子 倉敷市保健所保健課 主任

◎委員長（50音順、敬称略）